

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 保健医療学部看護学科
名 前 川本利恵子
作成日 令和5年9月25日

1. 教育の責任

私、川本利恵子は看護学部看護学科長及び教授として、看護学科全体のカリキュラムの構築および運営の統括を担うとともに、現在は、主に基礎看護学と臨床看護学領域を担当している。湘南医療大学へ着任後に担当した主な教育科目は成人看護学領域に関する内容が主であった。私の担当科目の特徴は看護学部1年から4年までのすべての学年に開講されていることと、看護学教員全員での運営や、統合にかかわる科目が多いことである。具体的には、1年次は看護基礎ゼミや基礎看護学のナーシングスキル・ナーシングプロセスおよびヘルスアセスメントという科目で、看護の基盤形成となる知識と看護実践能力スキルについて、講義演習を通して教授している。2、3年次は、特に健康障害に関する看護問題を扱う臨床看護領域の知識や技術を積み上げられるよう学習内容を発展させ応用力を深め、看護の幅広い知識や技能に関する能力に関し、講義演習を通して教授している。4年次の統合看護実習においては、学生がこれまで興味関心を持っていたが学習できなかった内容を中心に、主体的に学習を行うことに腐心している。各授業のシラバスは湘南医療大学 シラバス(冊子体)およびWEB 上でも本学学生並びに教職員に公開されている

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

湘南医療大学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を建学の理念としているが、「人とのふれあいを通して、他者を思いやり、全て生あるものに感謝し、その人らしさを大切に、全ての人々の幸せに役立つことを期すること」を大学の教育目的として学則にも明示している。こうした理念を基盤として、「継続的学習力、想像力、そして課題解決能力」を育む「幅広い教養教育」と、エビデンスに基づいた専門知識の・技術の修得を基盤とした「人権や生命の尊厳を慈しみ、感性を享受するための専門教育」を追求し、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成が重要であると考えている。この大学の理念を実現するために、私は豊かな人間性と高度な専門性と自律性を持ち、かつ看護の現場で協働しチーム医療を推進できる人材の育成が重要と考えている。また、一方で日本の医療、福祉に求められている社会的ニードは高くなっている。そのため看護学を学ぶ学生に対して、正しい知識と技術のみならず倫理観について、学習を深めることができることが重要である。そのために、教育理念に基づいた教育に真摯に取り組まなければならないと考える。

2) 理念をもつに至った背景

前述したが、看護学を学ぶ意義や根拠に基づいた看護ケアの重要性について興味関心を持つように、かつ理解しやすく具体的な教育を構築したいと考えているが、そのためには教育理念が重要である。私が担当する授業科目は、看護学部 1 年次生から 4 年次生の必要な必修科目が多い。1 年次は基礎分野の科目から看護の専門科目の知識の学修に取り組み始め、4 年次は国家試験を目前にそれまでの知識・実習の集大成として統合を図る学年であるが、理念に基づくとともにその授業内容を十分に検討し教授する。さらに、日本の 2025 年問題に重要な医療専門職を育成することが使命であると考えているが、そのために私は豊かな人間性と高度な専門性と自律性をもち、かつ看護の現場で協働しチーム医療を推進できる人材の育成が重要と考えている。

3. 教育の方法・戦略

看護の基礎と応用科目の目的は、看護の役割と機能を知ることである。そのためには、まず健康障害に伴う症状、治療による生活の影響に関心を持ち、理解することが重要である。そこで、視聴覚教材を活用し、興味や関心が持てるように心がけている。

さらに、統合実習などは自己の生活経験や出来事を結びつけて考えることができるように働きかけることなどが、教育上有効である。そこで、学生の感性を刺激し、感情の変化が起こるような授業を日々心がける。書籍や雑誌のトピックスなども授業の教材としては重要である。身近な TV やネットなどでの話題や社会問題も学生に提示することで、興味深い題材となる。看護の教材は生活をしているこの社会の中にあるので、日々の生活にもアンテナを張っている。

アクティブラーニングの手法を用い、対話の教育を基本とし、反省的思考をシミュレーション教育や創造的な学びで学生が振り返ることができるよう工夫している。追体験を行うことができるような働きかけを組み込んでいくために、看護師との対話の中からエピソードを聴く機会を得ることも教育方法として非常に重要である。

私が担当している科目の特徴は看護学部 1 年から 4 年までのすべての学年に開講されていることと、看護学教員全員での運営や統合にかかわる科目が多いことである。そこで、教育を改善するための努力としては、授業評価アンケートを行うとともに、アンケートの回収率の向上と評価得点の向上と学生の教授方法希望について対応を行うことで教授方法の改善を図っていききたい。

まずは、評価アンケートの実施方法および質問項目についての改善が必要である。臨地実習は実習に即した回答しやすい質問内容の検討・改善を行う。そして、実習最終日の最後の時間内に授業評価アンケートの回答時間を設けるなどである。

次に、教授方法の改善としては、配布資料など教材の使用の周知、事前課題・グループ演習で使用する配布資料を学生と教員が統一した見解で使用できるように工夫する。次に授業評価アンケートの結果に対して、前年度より平均値をあげる。FD・SD研修として他の教員から委員から授業参観を受け、その評価内容に基づく改善に取り組む。

4. 学習成果

本学では年 2 回、教育活動の評価・成果として前期と後期に学生による授業評価アンケートを実施している(資料 1 と 2)。さらに、授業終了時にコメントカード(リフレクションペーパー)の提出を学生に求めている。以下に授業評価アンケートの結果の概要を示す。

1) 看護基礎ゼミ

受講の動機は、必修科目であることと興味関心があると示していた。担当科目の教育活動の評価と成果、学生からの授業評価やコメントは以下の通りである。

- ・授業評価の項目は、すべて看護学科の平均得点より高い値であった。
- ・資料が見やすかった。看護学科の沢山の教員の方がいて質問しやすかった。
- ・知識やレポートの書き方を学ぶことが出来たこと。
- ・グループワークなど周りの人と交流する機会や意見交換の場があった。
- ・最後の PROG テストが自分の強みや課題を知れてすごく良かった。
- ・看護の基礎的な知識を学ぶことをできた。看護についてしっかり考えることができたなど

2) 看護応用ゼミ

10 名のみ学生からの返答であった。調査依頼のタイミングが国家試験前であり、質問項目に対し懐疑的であった。

5. 改善のための努力

これからも、科目責任者として授業を担当するが、学生はまだ人生経験も少なく、学習者としてのレディネスも未熟である。さらに、看護学については初学者であることも配慮することが重要である。そこで、学生が疾患や患者のイメージを具体的に持つことができるよう、授業を工夫していく必要がある。学生が視覚や聴覚に訴えるなどの工夫をし、理解しやすかつわかりやすいように興味、関心を高める授業方略」を工夫しなければならない。学生が理解できるような授業展開を行うためには、教員として授業方法を自己研鑽していく必要がある。授業を通しての学生の反応や、授業評価、ピアレビューでの他者評価を参考にして授業内容や方法を評価し改善している。

6. 今後の目標

1) 長期目標: 本学の教育理念に基づき、学士力や看護実践能力育成を基盤に、高度な専門的知識の習得と豊かな人間性を育む教育を目標とし、看護師資格取得に向けた学生教育と支援を行う。さらに、自律した専門職業人となるためにに向けた自己研鑽に向けた教育に取り組む。教育の実践とともに、自己の研究も通して学生のキャリアの支援にも貢献する。

2) 短期目標: 日々の学びを大切に、本学の 6S 活動である礼儀、作法、環境美化活動を行い、さらに実習を通して身に付いた看護実践能力を高めるとともに、ボランティア、進路決定等も自主的に取り組むように努める。

【添付資料】

2022 年度 授業評価アンケート結果

科目名:看護基礎ゼミ 担当者:川本 利恵子他教員一同 (資料1)

科目名:看護応用ゼミ 担当者:川本 利恵子 他教員一同 (資料2)